

平成 1 9 事業年度 国立大学法人九州大学決算報告書

平成 2 0 年 6 月

平成19年度 決算報告書

国立大学法人 九州大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備考
収入				
運営費交付金	48,052	46,962	△1,090	(注1)
施設整備費補助金	6,493	4,726	△1,767	(注2)
船舶建造費補助金	—	—	—	
施設整備資金貸付金償還時補助金	—	—	—	
補助金等収入	351	1,087	736	(注3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	3,137	3,137	—	
自己収入	36,937	40,107	3,170	
授業料、入学料及び検定料収入	10,957	10,918	△39	
附属病院収入	25,550	28,551	3,001	(注4)
財産処分収入	1	9	8	
雑収入	429	628	199	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	10,569	14,124	3,555	(注6)
引当金取崩	—	—	—	
長期借入金	7,957	3,749	△4,208	(注7)
貸付回収金	—	—	—	
承継剰余金	—	58	58	
旧法人承継積立金	—	—	—	
目的積立金取崩	2,404	3,224	820	(注8)
計	115,900	117,178	1,278	
支出				
業務費	68,296	69,973	1,677	(注9)
教育研究経費	42,409	38,161	△4,248	
診療経費	25,887	31,812	5,925	
一般管理費	13,311	12,453	△858	
施設整備費	17,587	15,853	△1,734	(注10)
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	351	1,083	732	(注11)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	10,569	13,499	2,930	(注12)
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	5,786	5,840	54	
国立大学財務・経営センター施設費納付金	—	7	7	
計	115,900	118,711	2,811	
収入－支出	—	△1,533	△1,533	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、予算において、収入とはならない繰越債務を計上したため、予算額に比して決算額が1,090百万円少額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、(伊都)基幹・環境整備及び(馬出)耐震対策事業の繰越により、予算額に比して決算額が1,767百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、申請件数の増加をはじめとして全学的に補助金等の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が736百万円多額となっています。
- (注4) 附属病院収入については、7対1看護導入による増加及び患者数の増加等の結果、予算額に比して決算額が3,001百万円多額となっています。
- (注5) 雑収入については、学校財産貸付料収入、演習林収入及び損害賠償保険金収入の増収等により、予算額に比して決算額が190百万円、さらに特許権取得に努めたことにより特許権及び版権に係る収入が9百万円、計199百万円多額となっています。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入については、申請件数の増加をはじめとして全学的に外部資金の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が3,555百万円多額となっています。
- (注7) 長期借入金については、当初予定していた六本松キャンパス移転整備に係る資金の調達を民間金融機関からではなく、借入利息軽減の観点から学内保有の現預金による一時的な立替により行ったため、予算額に比して決算額が4,208百万円少額となっています。なお、立替額は、平成20年度の長期借入金により精算する予定となっています。
- (注8) 目的積立金取崩については、主として目的積立金の使用年度の変更により、予算額に比して決算額が820百万円多額となっています。
- (注9) 業務費については、教育研究環境の充実を目指したキャンパス移転事業等を円滑に推進するための必要経費の捻出を目的として、全学的に経費の節減等に努めた。一方、病院収入の増加に伴う費用の増加により、予算額に比して決算額が1,677百万円多額となっています。
- (注10) 施設整備費については、(注2)に示した理由等により、予算額に比して決算額が1,734百万円少額となっています。
- (注11) (注3)に示した理由等により、予算額に比して決算額が732百万円多額となっています。
- (注12) (注6)に示した理由等により、予算額に比して決算額が2,930百万円多額となっています。